

公表 事業所における自己評価結果

事業所名 **ここいる**

公表日 **令和8年2月28日**

回収率 **100%**

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0	・適切になるよう、活動の内容によっては部屋に対して人数を分けたりすることも考えられている。	
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	0	・子どもの状態が不安定な時は、適宜スタッフが個別に対応できていると思う。	
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	0	・基本的には構造化された環境が作られているが、遊ぶ場所との活動の場所の分化が必要な児童にとってはわかりにくいこともあるかもしれない。	遊ぶ場所、活動の場所を視覚的にわかりやすく支援をしたり、活動の場所を状況に合わせて変化をさせていく等、子ども達がわかりやすく参加できるように支援や環境を工夫していく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0		
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1	・勉強したい子どもや体を動かしたい子どもの状況に応じて部屋を分けることがある。	引き続き、子供の状況や状態を評価をしていながら、子ども達が安心して活動に参加ができるように支援を行っている。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7	0		
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0		
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0		
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	3		今後、必要に応じて、第三者による外部評価を実施していくか検討していく。
適切な支援の提供	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0		
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0		
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	0		
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0		
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0		
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	0		
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0		
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	0		
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0		
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	0		
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0		
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	0		
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0		
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0		
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7	0		
25 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	0			

関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0		
	27	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	0		
	28	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	7	0		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7	0		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	1	・情報提供をしているか不明だったため。	他のサービスに移行をした際には、必要に応じて、移行先の事業所や関係機関、担当の相談員さんに情報提供を行っている。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	1	・あるのかもしれないが、わからない。	機関相談員主催の研修会にスタッフが参加をしている。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	6		今後、必要に応じて、交流の機会を作ったり、サービスの中でどのように一緒に交流ができるかを検討していく。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	6	1		自立支援協議会には、管理者が毎回参加をしている。自立支援協議会での内容をスタッフにも周知ができるようにしていく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0		
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	3		個別に面談等の支援を行っている。しかし、ペアレントトレーニングを実施できるスタッフがおらず、実施することはできなかった。そのため、ペアレントトレーニングを実施できるスタッフの育成、研修への参加を促していく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	0		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	0	7		アンケート等、利用者の意見を参考にしながら、必要に応じて実施を検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	6	・事業所内での行事が行われているか不明だったため。	外部に開かれた事業所の行事を行っていない。地域の行事にスタッフ等が参加をする等、事業の中でできる範囲で地域参加へと貢献をしていく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0		
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0		
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	0		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0		
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	0		

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ここいる		
○保護者等評価実施期間	令和7年10月22日	～	令和7年12月31日
○保護者等評価有効回答数	(対象者数)	37	(回答者数) 36
○従業者評価実施期間	令和7年10月22日 ～ 令和7年12月31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月28日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用定員やこどもの状態等に対して、適切に職員を配置したり、環境を臨機応変に整えることができている。	こどもの状態が不安定なときは、適宜スタッフが個別に対応をしている。	引き続き、こどもたちの状態や状況に合わせて、お子さんにあった一人一人の支援を行えるように対応を工夫していく。
2	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達をわかりやすく伝えられている。	伝達ファイルにその日の様子をコメントとして残し、保護者の方にお渡ししている。月初めに、より詳細なデイの記録の複写を保護者の方にお渡しをしている。	保護者の方にも伝わりやすいように、専門用語を使わずに、わかりやすい言葉で伝えるなど、工夫を行っていく。
3	事業所のプログラムが固定化しないように工夫をしている。	毎月、デイ会議を行い、活動内容が固定化しないように、活動の目的を明確にして実施をしている。	必要に応じて、活動に連続性を持たせていくなど、お子さんに合わせた活動の内容を提供できるように、活動内容を日々検討していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた行事が行えていない。	外部に開かれた行事は行っていない、事業所でできることが限られてしまっている。	地域の行事にスタッフ等が参加をするなど、事業の中でできる範囲で地域参加へと貢献をしていく。
2	保護者向けの講座など、家族に対しての家族支援プログラムが行えていない。	保護者向けの講演会をする時間を確保できていなかった。	スタッフが保護者向けの講演会を実施できるように検討をしていく。
3	定期的な災害の訓練等を行っているが、保護者の方に広く周知ができていなかった。	フィードバックの際に、訓練を行なったこと、訓練の際、どんな様子だったかの評価が足りなかった。	訓練を行なった際はフィードバックだけでなく、普段の記録にも記載をするようにする。また、訓練の様子も加味した評価を行えるように支援を行っていく。